
魔法/能力/学園モノ

笹倉

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

魔法ノ能力ノ学園モノ

【Nコード】

N7796Y

【作者名】

笹倉

【あらすじ】

「嘘の新年」に行われた入学式。リンゴががしゃがしゃと音を立てて答辞を述べた。「学園」は弱肉強食。入学初日から不名誉な異名、「子作り」（ラヴメーカー）をつけられた七臣蔵人は、どうにかこうにか、学園の生活を楽しんでいく。

四月一日 / 「嘘の新年」

四月一日 / 「嘘の新年」 / 入学式

モニターに学園長（？）が映し出されている。場内で新入生たちがざわついた。司会役の教頭がそれを鎮める。「嘘の新年」、入学式の毎年の恒例行事である。「学園長からの有り難いお言葉」と教頭に紹介され、モニターに映し出された学園長。その容姿は、林檎であつた。正確に言えば、林檎がベースであつた。林檎の中心に大きな目が一つ、ついている（まるでギリシャ神話のキュープロクスのような目だ）。それから、林檎の下の方に設置されているのは？ 埋め込まれているのは？ 表現の仕方は分らないが、とにかく何かがついている。機械だ。長方形の銀色の機械がついている。その長方形から右、左にそれぞれ四本。計八本の細い針金のようなものがついている。「足」だ。それがかしゃかしゃと音を立てて、モニターに映っている。その大きな目がまばたきをする。シャッター音のような音。

「エイプリルフール
四月馬鹿ども」

合成音声で、エイプリルフール
嘘に騙された人

新入生

に林檎が語りかける。

「入学おめでとう。諸君らは学園に入学を許可された。これから君たちには数千、数万もの魔法公式、魔方陣を覚えて貰うことになる。君たちの頭は埋め尽くされるだろう。脳メモリの容量は空けてきたか？能力者諸君はまだしも、無能力者の諸君は大変な努力が必要になるだろう。もう死にたい！　だとか、殺してくれ！　だとか。そういう時には学園の優秀な教師陣に言うように。あらゆる手段、あらゆる能力、あらゆる魔法、あらゆる体術で、君たちを絞めて殴って切って煮て焼いて捻り切り磨り潰し　殺してくれるだろう。よく聞け、義務教育は終わった。君たちは魔力を持っているから此処に来た。もう遊びの時間は終わったんだよ。終わったんだ」

林檎中央の目が三日月状に歪む。笑っているのだ。

「以上をもって、異常を持って！　学園長からの有り難いお言葉とする。諸君、」

映像が消える。モニターは黒一色。

「今日はエイプリルフルだよ。全て、嘘という事にすればいいさ！」

合成音声だけ。

四月一日 / 1 - A

七臣は溜息をついた。^{シチオミ}入学式が終了し、そのまま能力査定が行われ、クラスが割り振られて（能力の有無、性質などを考えて割り振られるらしい）、教室に入れたのが入学式から六時間後。既に時刻は三時頃だ。一時頃には帰れると思ってた、ともう一度溜息。それから、何故このA組だけ教室が五階の離れの離れなのか、とも溜息。他の一年生は四階、僕たちは五階じゃあ差別じゃないか、と七臣は考える。それから、七臣は周りを見る。十八人。七臣はカウントする。自分合わせて十九人。自分の後ろの席が一つ空いているだけだから、クラスの人数は二十人。みな大人しく椅子に座っている。入学一日目だから、こんなものか、と考える。

がらり、と教室の戸が開く。みながそちらに目を向ける。戸を開けた主。長身の女。は、「ひ！」と小さな悲鳴を上げた。みなは注目を浴びて吃驚したのだろう、と七臣は推測する。長身の女は腰を曲げて、頭をぺこぺここと下げながら移動し、七臣の後ろの席へ座った。ショートボブの髪が少し揺れる。色白で、鼻筋が通っている。目は大きく、まつげは長い。唇は薄いピンク。

さて、突然であるがここで七臣について説明しよう。

^{シチオミクロウド}

七臣蔵人。十五歳。能力持ち。水系、氷系、縛系魔法が苦手（魔法はあまり得意ではない）。体術は得意。黒髪。髪型ツーブロック。眉にかかる程度の前髪。色は日本人の平均程度。右耳にピアス三個。

舌にも一つ。左胸、右肩甲骨にタトゥーあり。あまり素行のいいようには見られないが、性格は世間一般の不良のイメージのように、見栄っ張りだとか、派手好きだとか、そうだったことはない。能力については今は記述しないが、生まれたときから能力を発現していた、^{ネガティブ}先天性。その他特筆すべき点はない。ないが、強いて言うなら

彼は超肉食系男子だった。

七臣は立ち上がる。椅子ががたりを音を立て、周りの注目が七臣に向く。後ろの長身の女生徒の机にだん、と手をつける。また、ひと小さな悲鳴をあげる女生徒。

「お名前は!？」

七臣は大きな声を出す。周りの生徒達が怪訝な顔をする。え、と長身の女生徒は聞き返す。お名前は!？ とまた同じ質問をする。女生徒はしどろもどろになりながら、答える。

「は、花村……夏木です」

「ナツキ!」

「は、はい!」

ナツキは思わず背を伸ばす。七臣はぐい、とナツキに顔を近付ける。鼻と鼻が触れ合う位の距離だ。

「僕とセックスをしよう！」

七臣蔵人の不名誉な異名の理由は、ここから来ている。

「子作り」
入学初日に決まった、彼の異名の一つだ。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7796y/>

魔法/能力/学園モノ

2011年11月23日10時49分発行